

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200094		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西三荘 (1階)		
所在地	大阪府 守口市 橋波西之町 1-6-11		
自己評価作成日	平成25年2月14日(木)	評価結果市町村受理日	平成25年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2793200094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaiokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2793200094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年 3月 1日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①【ご生活】:	生活リハビリを中心に、何事もスタッフと一諸に行い御利用者様のADLやQOL維持向上に努め活気あるメリハリのついた生活を提供させて頂いています。
②【豊富な年間行事】:	御誕生日会、節分、お花見、七夕、外食、行楽、敬老会、クリスマス、初詣・だけでは無く、突然イベントなどを行う等フットワークの軽いグループホームです!
③【充実した研修体制】:	毎月施設内研修を行いスタッフのスキル、レベルアップを図り御利用者様に明るく、元気で負担の少ない生活をして頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念のもとに支援に向けた基本方針を定め、事業所をきれいにすることや気を使う事をキーワードに、その時々の方針に沿った支援になっているかを振り返り、職員は利用者に優しく丁寧な対応に努め、個々の利用者にとって何が必要かを日々の生活の中で利用者の思いを見極め支援を行っています。建物周辺を利用者と共に清掃を行ったり、事業所の清潔を常に保つことで心地良い生活を目指し、利用や家族への心配りや職員同士あるいは近隣の方々など取り囲む人々への配慮を絶えず意識した事業所となるように職員間で心がけています。運営推進会議では、自治会長や市職員、家族の参加の中で地域の情報や防犯などの話があり、事業所の家族を含むクリスマスなどのイベントに地区の公民館の利用提案があるなど、事業所が地域の一員としての関係が徐々に築かれています。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に経営理念を添付し、何時でも全スタッフが確認共有できる様にし、実践に繋げている。	法人の理念のもとに運営方針を作成し、定期的に振り返りを行っています。利用者の生活が地域に関われるよう、事業所廻りを利用者と共に日々清掃しきれいな環境作りに努め、取り巻く人々との関わりが穏やかであるようにこの方針に沿って支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝、スタッフと御利用者様で施設周辺掃除を行い顔馴染みの関係を構築し盆踊りなど参加を通して地域との交流を深めている。	天気の良い日には周辺の散歩や清掃活動、時には買い物で出会った方々とは挨拶を交わしています。自治会に加入し、運営推進会議などで情報を得て盆踊りなどに参加しています。ボランティアの来訪で、歌や手品を楽しむ事があったり、公民館を借用して事業所のクリスマス会などが行われ、今後の地域交流に繋がればと考えられています。また、子ども達との交流も行いたい意向です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や日課の外回り掃除や近隣商店街への買い物を通じて地域の方に理解して頂く様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に必ず開催し玄関に運営推進会議の結果をファイルし全スタッフが確認共有できる様にしている。また、意見が出た場合 毎月の会議で話し合う場を設けている。	2ヶ月に一度運営推進会議は開催されており、事業所からの行事や企画などが報告されると共に、地域から公園の草ぬき日や防犯について等、地域の情報が伝えられています。また家族を交えた行事に公民館の利用の提案等が出され、サービスに活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、基礎自治体担当者を交えた施設管理者会議で報告や現状を伝えている。また、保険者についても相談や報告を行っている。	質問や相談事がある時には直接市の窓口に出掛けたり、情報のやり取りを行い関係作りに努めています。地域密着型サービスの会議には市の職員の出席もあり、事業所理解に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時、本社にて研修を行っている。また、同講義を年1回本社研修で行い、施設内研修の落とし込みをし全スタッフ身体拘束の意味を理解し実践に取り組んでいる。	新任研修はじめ毎年職員に向けた身体拘束をしないケアの研修が行われ、出席職員による伝達が行われています。玄関や2階の出入り口は安全上施錠していますが、外出したい様子の利用者には一緒に出掛ける等、寄り添い拘束感のない暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時、本社にて研修を行っている。また、同講義を年1回本社研修で行い、施設内研修の落とし込みをし全スタッフ虐待防止の意味を理解し実践に取り組んでいる。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括主催の後見人講習等受けているが、今後は全スタッフが権利擁護並びに後見人について理解と把握に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主体となり家族様の要望や疑問点を聞き取りし、新たな疑問点が出れば何時でもご説明させて頂く旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来宅して頂いた際、ご意見やご要望を何時でも聞き取れる雰囲気作りと玄関に専用ポストを設けている。また、本社より年1回御家族様へ満足度アンケートを実施している。	家族の来訪時には管理者が日々の状況を伝え、意見を聞く機会を持っています。家族の運営推進会議への出席もあり意見を聞いたり、法人によるアンケートも実施されています。フロアが無人になる事が無いようにと言う意見等に対しては職員間で検討し、声の掛け合いを申し合わせる等の改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い意見を聞く場を設けている。 また事務所は、常に開放しスタッフが何時でも入れ話を聞く様にしている。	会議の席では職員は活発に意見交換がなされ、利用者の支援に向けた個別のカンファレンスも多く持っています。出された意見から介護計画に反映できる事は計画に挙げ、業務や行事に関しての意見は運営に反映させています。また、面談を行い、個別に意見を聞く機会もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社人事課より、給与体制やキャリアアップの説明や社内メールで整備を行っている。また、自身の要望を優先し施設異動もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月本社での各研修を行っている。また、各スタッフがスキルアップの為、資格習得研修や基礎自治体講習を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者並びにフロアリーダーが研修に参加し交流をしている。今後は全スタッフが交流参加出来る場を設けたい。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントでは御本人様より聞き取りが困難であれば、御家族様の話を傾聴し現状を把握する事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではクローズドクエスチョンでの質問やパーソナルスペースを活用し安心して話をして頂ける関係作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者並びに全スタッフで家族様より御要望を聞き取りやすい雰囲気作りに努めている。また、施設生活後、御要望があれば訪問マッサージのサービス対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様の現状(ADLやQOL)を把握し、生活リハビリを中心に出来る事をやって頂き日々、楽しく生活できる様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームへ何時でも来て頂ける雰囲気作りを行い、また施設イベントでは全御家族様に案内状を送付し参加して頂ける様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の御利用者様に馴染みの方が定期的に来られますが、全御利用者様対象となると不十分なので今後は全利用者様に範囲を広げたい。	友人知人の来訪があり、お茶を出したり居室で寛いでもらうようにしています。家族に協力を依頼するなかで墓参りやデパートでの買い物など、今までの生活が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリやイベント、レクリエーション、日々の生活において御利用者様の個性を大事に活かしお互いが支えあう関係構築を支援している。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された御利用者家族様よりファックスを頂き、関係の継続を努める様になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等でサービス内容を検討し思いや意向の把握に努めている。今後は介護者優先のケアにならない様に注意していきたい。	契約時には、利用や家族から意向を聞き、以前の事業所から心身の状況や入居前の看護サマリーなど聞き取った状況を基にアセスメントを行い、情報を職員間で共有しています。困難な場合は、日々の様子や表情などからくみ取り、職員間で検討し思いの把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様などから得た情報を御利用者様個人ファイルにまとめ、全スタッフが把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録や申し送りでの報告や連絡で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様の現状に応じて、御家族様、地域包括、後見人と連携しケアプラン作成の情報収集を行い、モニタリングを基に改善や継続を行っている。	介護計画の作成に当たっては、本人の思いや計画作成者が家族から聞き取った生活への意向、医師からの療養管理情報等を基に、職員間で担当者会議を行っています。毎月モニタリングを行い、6か月毎に評価や再アセスメントの実施、担当者会議を行い見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時には必ずケア記録を確認し情報の共有を図り、状態の変化を発見しケアプランの見直しに活かしている。今後は【気づき】の意味と重要性を周知していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩等、日課と決めずに、その時の御希望に合わせて実践しています。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を通じて、コンビニや公園、商店街、薬局、スーパー等利用しQOL向上に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	奇数週1階、偶数週2階に往診して頂いており特変や気になる御利用者様へは週に関係なく診て頂き細かな情報も報告している。	入居時にかかりつけ医の継続が可能であることを伝え、選択してもらっています。家族による受診の支援や状況によっては事業所が受診に同行するなど、受診の内容を家族と共有し適切な医療に結び付けています。2週間に1度の協力医の往診があり、訪問看護との連携で夜間や時間外でも連絡のとれる体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日、訪問看護師に見て頂き1週間の気づいた点や変化等を相談報告し医療従事者との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、提携病院のソーシャルワーカーと連絡を行い御本人様の状況を把握に努め、またドクターより現状や今後の方針を伝えて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り介護の方針を御家族様に説明しスタッフへは看取り加算申請の旨を伝えている。今後は看取りについての施設内研修を増やしていきたい。	入居時には医療的な支援が出来ない等、事業所の指針に沿った説明をしています。利用者の状況が変化する中で、医師や家族を交えた話し合いが行われ、利用者本位にその時々での支援の方向性を見極め方針を共有し対応しています。研修体制をとって職員の学ぶ機会があり、職員の不安の軽減に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法をスタッフルームに貼付しているが、ベテランの施設経験者対応が認識と実践力が乏しいのでスキルアップを促す研修や訓練をしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年10月に消防隊を含めた訓練を実施。今年は年2回は日中、夜間を想定した訓練を遵守していきたい。	通報や初期消火、誘導や経路確認等、利用者と共に日中を想定した年2回の訓練を実施しています。職員の救命救急の研修と共に夜間想定訓練を企画しています。	夜間想定訓練を企画中ですが、地域や近隣への声かけで事業所を知ってもらふ機会にする等、協力体制が構築されていくことを期待します。

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として色々な事を教えて頂く気持ちで言葉を選び優しさと思いやりのある会話と態度を示し、その人に応じた対応を心掛けています。	支援の方針に気を使う事を掲げ、利用者や家族、周りの人へ気づかいのある接遇を基本とし、親しみやすい会話を心がけています。法人による接遇研修があり、職員間で検討し丁寧な声かけを行っているかなど振り返りを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も御本人様に決定権を持って頂く様にし、また希望に沿った行動をして頂ける雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の言動や行動を理解し日々、対応していきたいがスタッフ都合で業務優先で動いている面が弱感、見られるので改善していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの支援として買い物に行った際、髪留めを選んで頂き購入する等実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御本人様の能力を活かし、食事作りや盛り付け、配膳や下膳、洗い物など一諸に行う事を実行している。	献立に沿って食材が業者から届き、刻んだり盛り付け、味見など、出来る事に携わってもらいながら作り、職員も一緒に食卓に着き食事が楽しめるよう支援しています。定期的に食べたいものを利用者に聞き買い物から一緒に行ったり、誕生日にはケーキを手作りしたり、外食を楽しむ事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材発注会社管理栄養士によるメニューでバランスの取れた食事を提供し、食事形態もキザミ食や極キザミ食にする等御利用者様に合った形にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い義歯はスタッフがブラッシングを行い週1回訪問歯科に診て頂き、口腔内の清潔保持に努めています。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄訴えのサインを見つけ誘導を行っている。また、紙パンツから布パンツへ、いわゆるオムツ外しの検討も考えていく方針にしている。	排泄チェック表を基に、利用者に合わせた支援を心がけています。利用者のサインを見極め、トイレへの誘導で失敗の無いようにするなかで、紙パンツから布パンツに変わった利用者も居られ、自立に向けて職員間で検討しながら支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維やヨーグルト等を使用や自立の御利用者様にはトイレ使用后、排泄の有無を確認し便秘気味の方には腸動運動をし腸閉塞の勉強も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を固定せずに入浴がお好きな方には体調の異変が無い場合、毎日入浴して頂いています。今後はスタッフの人員基準に、よるが夜間入浴も検討していきたい。	朝から夕食前までの時間を基本として、利用者の希望に合わせて入浴の支援を行っています。毎日の希望にも応じたり、拒否される方には会話を弾ませるなど工夫をしながら入浴に繋げています。ゆず湯や菖蒲湯など季節の湯を楽しんだり、自身の好みのシャンプーで入浴される利用者も居ます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし外気浴、散歩等の光療法の活用やレクリエーション参加等、体内時計を考えて実行しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御利用者様の服薬全般について、全スタッフが統一して理解と把握に今後、努めていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や裁縫、編み物、将棋、トランプ等【したい事】【やりたい事】【出来る事】を大切に実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昼食の外出支援では、御利用者様が食べたい食事を聞き取り出掛けています。また、朝食では喫茶店へ行くなど今後は回数をも増やしていきたい。	天気が良ければ日々散歩や買い物、時には喫茶店に出掛けています。花見や初詣、万博公園等への遠足を企画して出かけ、出かけられない時には玄関のベンチや花壇の植え替えなど外気浴の機会を設けています。	



グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際、支払ではお金を渡して頂いたり、おつりを受け取って頂く等お金の意味と大切さを実感して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ていない。 今後は御利用者様から電話や手紙を出して頂く等、馴染みの関係が続いて頂ける様に支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、折々の季節に応じた花を飾ったり、壁には毎月の状態を出し季節感を取り入れている。また、温度調整や音等不快感を出さない様に努めている。	リビングでは温湿度計や空気清浄機の設置で利用者に適した環境の整備を心がけています。利用者と共に作った季節の感じられるちぎり絵などが飾られ、キッチンを囲む空間は生活感があり、職員は利用者の関係性が良くなるように配置を心がけ、居場所作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、フロアと自由に行き来して頂き、食事の際は気の合う方同士で集まり楽しく召し上がって頂ける様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や額縁、文机や仏壇、タンス等入居前に使われていた愛用品を持って来て頂いている。	クローゼットが設置された居室は、利用者や家族の意向に沿った設営がなされ、チェストや整理だな、ミニ筆筒など思い思いの収納が工夫されています。写真や人形などの飾り物や思い出の写真が整理され居心地の良い生活になるよう支援されています。希望によっては布団を敷くなど利用者の希望に応じる体制があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心に【炊事】【掃除】【洗濯物たたみ】等、出来る事は やって頂ける様に支援や声掛けを行っている。		